


第6学年 国語科「みんなで楽しく過ごすために」

◆本時の指導（第3時/全6時間）

(1)本時の目標

目的や条件に応じて計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりすることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時に考えた話し合いの進行計画を確かめ、各班のめあてを決める。	<ul style="list-style-type: none"> 前時で、自分たちで作った進行計画を用いることで意欲を高める。 各班で、振り返るときの指標として、話し合いのめあてを決めておく。
	進行計画に沿って、話し合おう。	
展開	2 各班（3人）で話し合い、互いの考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が話し合いの進捗をいつでも確認できるよう、進行計画をモニターに提示しておく。 記録担当は、タブレットのドキュメントに記録を行い、振り返りの際、各班の話し合いの様子が全体で共有できるようにする。 ★自分の考えを発信したり、友達の意見を聞いて考えを深めたり、広げたりすることができる。  <p>◇互いの立場を明確にして進行計画に沿って話し合い、考えを広げたりまとめたりしている。 (観察・記述)</p>
まとめ	3 各班の話し合いの成果を全体で共有する。 4 本時の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 記録担当のドキュメントを見ながら発表し、全体で改善点やよい点を共有する。 それぞれのめあてが達成されたか確認する。

◆ 成果と課題

【成果】

これまでの経験から、話し合いの大事なポイントや進め方について、自分たちで考え進行計画を作ったことで意欲が高まった。単元の目標はクラスで話し合い、「話し合いが好きではない人にも、話し合いのよさを伝えよう」という目標にした。班は話し合いをより円滑にするため3名にした。それにより、一人一人が確実に考えを発信し、司会を中心に様々な意見が飛び交い、活発な話し合いができた。

【課題】

友達の考えにより、自分の考えが深まったのかどうかを振り返る時間を設け、話し合いによる深まりを感じさせる手立てを工夫していく必要がある。


第6学年 社会科「憲法とわたしたちの暮らし」

◆本時の指導（第10時/全11時間）

(1)本時の目標

税金の集められ方や使われ方を調べ、税金の果たす役割や暮らしとの関わりを捉える。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 税金がどのように集められているのか、何に使われているのかを予想する。	・自身の体験や身の回りの環境を振り返りながら考えさせる。
	国の政治を行うための費用は、どのように集めているのだろう	
展開	2 税金と国民の関わりについて話し合う。 3 税金の集め方、使われ方を調べる。 4 税金の役割について考え、まとめる。	・資料画像を提示し、「税金がもしなかったらどうなるか」と考えることで、自分たちの生活と税金の関わりに気付けるようにする。 ・教科書P29図表を見て、集められた税金の使われ方を確認する。 ・消費税以外にも様々な場面で税金が集められていることを捉える。 ・税金の役割について自分なりにまとめる。まとめ方の参考に冒頭だけ書き方を示す。 ★社会の一員として納税することの大切さを捉える。 
まとめ	5 本時の振り返りをする。	◇税金の役割や暮らしとの関わりを理解している。(ノート)

◆ 成果と課題

【成果】

資料画像として、実際の教室や物、街の様子を写真に撮り、税金がなくなるとどのような状態になるのかをイメージしやすいよう工夫したことにより、児童が自分事として考える様子が見られた。調べ学習の際には、毎時間使用している資料集やタブレットを活用した。事前に予想をしておくことで、答え合わせのような感覚で調べることができた。

【課題】

税金に対する全員の考えを事前にアンケートで調査し、授業の最後にまたアンケートを行えば、さらに児童の考えの変容が見られたのではないかと考える。

第6学年 社会科「裁判所のはたらき」

◆本時の指導



(1)本時の目標

模擬裁判を通して考えたことについて話し合い、裁判所の役割について考えを深めようとしている。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時までの学習を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 模擬裁判を通して裁判について考えよう。 </div>	・裁判所の仕事や役割について想起する。
展開	2 模擬裁判のやり方について確認し、模擬裁判を行う。 3 模擬裁判を通じて考えたことについて話し合う。	・時間配分や大まかな流れについて全体で確認し、活動の見通しをもたせる。 ・役割演技をする人は、読み方や身振り手振りについても工夫するよう促す。 ・聞き手のグループには有罪か無罪を判断し、その根拠についても考えるように指示する。 ・なぜそのように判断したのかを有罪、無罪それぞれの根拠について出し合い、お互いがどのように考えたのかを共有する。 ・共有したことを基に、裁判ではどのようなことが問題になるのかについて協議し、問題点を明らかにすることで裁判所の仕組みについて理解を深める。 ◇模擬裁判を通して考えたことについて話し合い、裁判所の役割について理解を深めようとしている。
まとめ	4 授業を振り返って考える。	★自己を見つめ、裁判と自分自身との関わりについて考える。

◆ 成果と課題

【成果】

児童の振り返りから前時で学んだ裁判所の役割について、模擬裁判を通じて体験的に理解を深めることができた児童が多い。自分と裁判の関わりについて、考えを深めることができていた。

【課題】

模擬裁判の内容は証拠が曖昧なものが多くなっているため、どのような判断がされるかについては様々な場合があることを補足する必要がある。

第6学年 算数科「並べ方と組み合わせ方」

◆本時の指導（第1時／全6時間）



(1)本時の目標

順列について、落ちや重なりのないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 絵を見て、走る順序や試合の対戦に関心をもつ。 2 問題場面から課題をとらえ、解決の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 想像を膨らませ、十分に内容の理解を促す。 順序や対戦は、ばらばらに調べると落ちや重なりが出てくることに気付かせる。 落ちや重なりに着目して課題意識をもたせる。 それぞれの見通しを共有し、自力解決につなげる。 ★課題を分析し、課題の解決のために大切なことや気を付けることは何か考える。
	落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。	
展開	3 自力で課題を解決する。 ・落ちや重なりがないように考えて、走る順序を全て書き出す。 4 解決方法を発表し合い、検討する。 ・各自の考え方を発表し、全体で共有する。	◇順列について、落ちや重なりがないように工夫して順序よく調べようとしている。（観察・ノート） ・机間巡視をし、個別に支援していく。 ・黒板や書画カメラなどで児童の考え方を示す。 ・友達の考えを図や表から読んで説明する活動等を取り入れる。 ・観点を決めて順序よく考えたこと、名称を記号化し図や表を用いて整理して表したことを価値付ける。
まとめ	5 問題を解決し、答えを確認する。 6 解決方法を振り返り、見方・考え方をまとめる。	◇事象の特徴に着目し、順列について、落ちや重なりがないように、記号化したり図や表を用いたりして、順序よく筋道立てて考え、調べている。（観察・ノート） ・落ちや重なりがないようにするためには、図や表に表すこと、記号化すること、順序よく考えていくことをおさえる。
	並べ方を調べるときは、図や表に表して順序よく調べる。	

◆ 成果と課題

【成果】

問題場面から、これまでの自分たちの経験を想起させることが内容の理解につながった。まずは、思いつぐままに全員でどのような並び方があるか考えることで、落ちや重なりが出てくることを確かめ、課題意識をもたせた。自力解決から全体に考えを共有する場面では、じっくりコースでは理解を十分に促すため、共有だけでなく、全員でひとつひとつ声に出し、理解を確実にできるようにした。

【課題】

その都度なぜそう考えたのかを尋ねることによって、並び方を考えるうえでのポイントを全体で確かめることができたのではないかと考える。

第6学年 算数科「並べ方と組み合わせ方」


◆本時の指導（第1時／全6時間）



(1)本時の目標

順列について、落ちや重なりがないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 絵を見て、走る順序や試合の対戦に関心をもつ。 2 問題場面から課題をとらえ、解決の見通しをもつ。	・順序や対戦は、ばらばらに調べると落ちや重なりが出てくることに気付かせる。 ・落ちや重なりに着目して課題意識をもたせる。 ★課題を分析し、課題の解決のために大切なことや気を付けることは何か考える。 
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;">落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。</div> 3 自力で課題を解決する。 ・落ちや重なりがないように考えて、走る順序を全て書き出す。 4 解決方法を発表し合い、検討する。 ・各自の考え方を発表し、全体で共有する。	◇順列について、落ちや重なりがないように工夫して順序よく調べようとしている。（観察・ノート） ・黒板や書画カメラなどで児童の考え方を示す。 ・友達の考えを聞き、自分の考えと比べながら、よりよい解決方法を見付ける。 ・観点を決めて順序よく考えたこと、名称を記号化し図や表を用いて整理して表したことを価値付ける。
まとめ	5 問題を解決し、答えを確認する。 6 解決方法を振り返り、見方・考え方をまとめる。	◇事象の特徴に着目し、順列について、落ちや重なりがないように、記号化したり図や表を用いたりして、順序よく筋道立てて考え、調べている。（観察・ノート） ・落ちや重なりがないようにするためには、図や表に表すこと、記号化すること、順序よく考えていくことをおさえる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">並べ方を調べるときは、図や表に表して順序よく調べる。</div>	

◆ 成果と課題

【成果】

「落ちや重なりがないように調べる」という言葉の意味について質問があった。ぐんぐんコースであったが、普段使い慣れない言葉が出てくる時には、この単元に関わらず言葉の意味を確認する必要があることを感じた。ぐんぐんコースだったため、教科書の問題に時間をかけるよりも応用問題に取り組む時間を多く設けた。子供たちにとってやりがいがあったようで、意欲的に取り組んでいた。また自然と友達と考えを相談する場面が生まれ、対話的に学んでいた。

【課題】

「次のことを考える力」の育成のためには、学習課題から問題解決までの見通しがもてるよう、より学習の流れが視覚的に分かりやすい授業展開と板書を心がけたい。

心の豊かな子ども
よく考える子ども
みんな力を合わせる子ども
健康で根気強い子ども

教育目標

1. 安全に...Be here
2. 一生けん命やる...Play hard
3. 安全に...Play safe
4. ...Play fair
5. 楽しむ...Have fun

1/22 ⑪ 並べ方と組み合わせ方
ちがひ (2通り) $(A \rightarrow B \rightarrow C)$ 同じ (1通り)
 $(A \rightarrow C \rightarrow B)$

⑫ Aさん、Bさん、Cさん、Dさんの4人で
リレーのチームを作り、1人1回ずつ
走ります。
⑬ 落ちや重なりがないように工夫して、
全ての走順を書きましょう。

樹形図

同じ記号を
何度もかかなくて
よい!

A-B-C-D
D-C
C-B-D
D-B
D-B-C
C-B

6通り
 $6 \times 4 = 24$ 通り

第6学年 算数科「並べ方と組み合わせ方」


◆本時の指導（第1時／全6時間）



(1)本時の目標

順列について、落ちや重なりがないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 絵を見て、走る順序や試合の対戦に関心をもつ。 2 問題場面から課題をとらえ、解決の見通しをもつ。	・順序や対戦は、ばらばらに調べると落ちや重なりが出てくることに気付かせる。 ・落ちや重なりに着目して課題意識をもたせる。 ★課題を分析し、課題の解決のために大切なことや気を付けることは何か考える。 
	落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。	
展開	3 自力で課題を解決する。 ・落ちや重なりがないように考えて、走る順序を全て書き出す。 4 解決方法を発表し合い、検討する。 ・各自の考え方を発表し、全体で共有する。	◇順列について、落ちや重なりがないように工夫して順序よく調べようとしている。（観察・ノート） ・黒板や書画カメラなどで児童の考え方を示す。 ・友達の考えを図や表から読んで説明する活動等を取り入れる。 ・観点を決めて順序よく考えたこと、名称を記号化し図や表を用いて整理して表したことを価値付ける。
	まとめ	5 問題を解決し、答えを確認する。 6 解決方法を振り返り、見方・考え方をまとめる。
並べ方を調べるときは、図や表に表して順序よく調べる。		

◆成果と課題

【成果】

落ちや重なりがないよう調べるために大切なポイントを色カードで表すことで、まとめで学習を振り替えるときに児童から考えを引き出すことができた。

【課題】

板書の工夫により見方・考え方を効率的にまとめられる効果を感じた。今後はICTも活用し、「次のことを考える力」を重点的に伸ばせるよう、視覚的效果を考えた授業をさらに工夫していく。



第6学年 算数科「並べ方と組み合わせ方」


◆本時の指導（第1時／全6時間）



(1)本時の目標

順列について、落ちや重なりのないように調べる方法を考え、図や表などを用いて調べることができる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 絵を見て、走る順序や試合の対戦に関心をもつ。 2 問題場面から課題をとらえ、解決の見通しをもつ。	・順序や対戦は、ばらばらに調べると落ちや重なりが出てくることに気付かせる。 ・落ちや重なりに着目して課題意識をもたせる。 ・それぞれの見通しを共有し、自力解決につなげる。 ★課題を分析し、課題の解決のために大切なことや気を付けることは何か考える。 
	落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。	
展開	3 自力で課題を解決する。 ・落ちや重なりがないように考えて、走る順序を全て書き出す。 4 解決方法を発表し合い、検討する。 ・各自の考え方を発表し、全体で共有する。	◇順列について、落ちや重なりがないように工夫して順序よく調べようとしている。（観察・ノート） ・必要に応じて、見通しを生かして解決するよう、個別に声かけをする。 ・黒板や書画カメラなどで児童の考え方を示す。 ・友達の考えを図や表から読んで説明する活動等を取り入れる。 ・観点を決めて順序よく考えたこと、名称を記号化し図や表を用いて整理して表したことを価値付ける。
まとめ	5 問題を解決し、答えを確認する。 6 解決方法を振り返り、見方・考え方をまとめる。	◇事象の特徴に着目し、順列について、落ちや重なりがないように、記号化したり図や表を用いたりして、順序よく筋道立てて考え、調べている。（観察・ノート） ・落ちや重なりがないようにするためには、図や表に表すこと、記号化すること、順序よく考えていくことをおさえる。 ・どんな方法で解決できたか、適用した考え方について振り返るよう促す。
	並べ方を調べるときは、図や表に表して順序よく調べる。	

◆ 成果と課題

【成果】

落ちや重なりがないよう調べるために、児童が課題意識をもって解決の見通しをもつことができるよう、導入部分で教師と児童、児童間で対話を行い、課題の解決のために大切なことや気を付けることについて考えた。

【課題】

対話の様子から課題意識の高まりは見られたが、課題解決につながる方策が児童からあまり出てこなかったため、次時以降には必要に応じて解決のヒント等を提示していく必要がある。また、友達の考えの良いところをより積極的に見付けて自分のものにする姿勢を育てたい。

どんな場合があるかな？
 リレー（人数が1人）
 走る順序は何通り？
 バスケットボール（4チーム連続）
 対戦は何通り？

④ リレーの走る順番には、どんなものがあるでしょう。
 (あおい、いくと、うみね、えり)

〈見通し〉
 - 書き出す
 (あおい-いくと-うみね-えり)
 (いくと-うみね-えり-あおい)
 ・ 表に書く

あおい	うみね	いくと	えり
あおい	うみね	えり	いくと

＝ 24通り分けた

落ちや重なりがないように調べる方法を考えよう。(走る順序は何通りか)

樹形図
 あ-い-う-え } 1人あたり
 う-い-え } 6通り
 え-う-い } 6 × 4 = 24
 い-う

まの (落ちや重なりがないように調べるには)
 ・ 1人分を求めて人数分をかける
 ・ 省略できることはする
 ・ 樹形図を書けるようにする
 ・ 記号にしておく

第6学年 理科「使う電気の量とはたらき」

◆本時の指導（第5時／全10時間）



(1)本時の目標

電気の性質や働きについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 手回し発電機で、豆電球と発光ダイオードに明かりをつけたときの手ごたえについて振り返りながら、話し合う。【問題発見】	・これまでの活動などを振り返りながら、豆電球と発光ダイオードの明かりをつけるとき、手回し発電機のハンドルを回す手ごたえが違うことに着目できるようにし、使われる電気の量について興味・関心を高められるようにする。
	豆電球と発光ダイオードで、使う電気の量にちがいがあるのだろうか。	
展開	2 予想する。【予想】	・根拠のある予想ができるよう、これまでに学習したことや経験したことなどを振り返るよう助言する。
	3 計画を立てる。【計画】	◇電気の性質や働きについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決している。（発言分析・記録分析） ★学習問題を理解し、それを解決するために、 適した実験を立案する。
	4 豆電球と発光ダイオードの明かりのついている時間について調べる。【実験】	・発光ダイオードは、授業時間内に消灯しないおそれがあるので、豆電球との差が確認できた時点で実験を打ち切ってよいことを伝える。
まとめ	5 結果を記録する。【結果】	・表などにまとめて記録すると、比較しやすくなることに気付けるようにする。
	6 結果を基に話し合う。【考察】	・自他の考えを比較したり、より多くの実験の結果に基づいて2つの違いを比較したりして考察しているか、必要に応じて助言する。
	7 本時の学習を振り返り、分かったことをまとめる。【結論】	
豆電球と発光ダイオードでは、使う電気の量がちがう。 豆電球よりも発光ダイオードのほうが、使う電気の量は少ない。		

◆成果と課題

【成果】

以前実験で使用した豆電球と発光ダイオードを利用し、消費電力を調べる計画を立てることができた。

【課題】

消費電力を調べる上で、具体的な内容までに至らない児童が多かった。変えない条件（同じコンデンサーに満充電）を考えられるような手立てが必要であった。

第6学年 理科「植物の成長と日光の関わり」


◆本時の指導（第2時／全5時間）



(1)本時の目標

植物の体のつくりと葉で養分をつくる働きについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決する。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時に見つけた問題を確認する。 【問題発見】	・この問題が作られた経緯を確認し、調べようとする意欲をもてるようにする。
	植物の葉に日光が当たると、葉にデンプンができるのだろうか。	
展開	2 調べ方を計画する。 （ノートに記入する）【計画】 3 自分で考えた調べ方を発表する。	・どのような条件設定をすれば、「葉に日光が当たるとデンプンができる」という仮説を検証できるか考えさせる。 ・イラストや表を使い、分かりやすくまとめられるよう助言する。 ・日光が当たる前に、葉にデンプンがあるかどうかを確かめる工程も入れるよう助言する。 ★課題や困難が生じた時に、解決方法を工夫して解決しようとする。  ・大型提示装置とバイシンクの比較機能を使い、児童の考えを全体で共有できるようにする。
まとめ	4 最終的に決まった調べ方を確認する。	◇植物の体のつくりと葉で養分をつくる働きについて、問題を見だし、予想や仮説を基に、解決の方法を発想し、表現するなどして問題解決することができる。（ノート）

◆ 成果と課題

【成果】

「葉に日光が当たるとデンプンができる」という仮説を検証するために、「日光を当てる・当てない」という条件制御の考え方を思いつき、解決方法を工夫していた児童が多かった。

【課題】

条件制御については理解していたが、検証するための3つの葉を同一にするための手立てまで、正確に計画できていた児童は少なかった。考えた解決方法を丁寧にシミュレーションし、見直す時間をとる必要がある。

第6学年 音楽科「豊かな表現をめざして」

◆本時の指導（第5時／全10時間）



(1)本時の目標

曲想の変化を感じ取って表現を工夫する。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	<ol style="list-style-type: none"> 前時の活動を振り返り、自分自身や全体の課題を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> 自分の課題や今日のめあてを考えて発表する。 パート練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体のめあてと共に、自分自身のめあてをもつよう助言する。 課題部分を取り出して練習するようにする。
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> 曲想の変化を感じ取って、表現を工夫しよう。 </div> <ol style="list-style-type: none"> 曲想が変化するところをとらえ、どのような工夫ができるか考える。 <ul style="list-style-type: none"> 曲想が変化するところで挙手する。 どのように変化したかを具体的ににする。 曲想の変化に合わせて、どのような表現の工夫が考えられるか意見交換する。 互いの演奏を聴き合う。 <ul style="list-style-type: none"> Aグループ、Bグループが交互に演奏し合い、聴き合う。 感想を伝え合う。 アドバイスを受けてもう一度演奏する。 	<ul style="list-style-type: none"> “曲想を表す言葉”を使って「静かで幻想的な雰囲気から、リズムカルで明るい感じに変わる」など、言葉で伝えるようにする。 強弱や音色、リズム感など、どこでどのように工夫するかを、拡大楽譜に記入し共有する。 曲想の変化が感じられたかだけでなく、互いの表現のよさも見つけながら聴くよう助言する。 ★互いに演奏を聴き合い、よりよい表現をめざしていけるように意見交換する。 聴き終わったあとは、拍手の手の位置で評価する。 頭の上で拍手：十分達成 胸元で拍手：努力は認めるが練習が必要 ◇表現のよさを感じ取ったり、表現の工夫に気付いたりしながら聴き、自分の演奏に生かすための考えや意図をもっている。 (演奏聴取・行動観察・発言)
まとめ	<ol style="list-style-type: none"> 本時の学習を振り返り、次時は演奏につなげるボディパーカッションの部分も練習することを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体の動きがそろっているか、生き生きと表現しているかを見合うことを伝え、

◆ 成果と課題

【成果】

聴き合い、意見交換する場を設定したことで、実際に聴き手（友達）にどのように自分たちの表現が伝わっているかがわかり、表現を見直すきっかけになり、よりよい表現を目指していこうという意識が高まった。

【課題】

全体での意見交換では、よかったところは伝えられたが、なかなか改善点については発言できなかった。パートごと等の小さい集団での意見交換も考えていくことで改善点を具体的に考えさせる必要がある。

第6学年 図画工作科「夢の新製品」

◆本時の指導（第3・4時/全6時間）



(1)本時の目標

あったらいいな、便利だなと思う新製品を考えて絵に表す。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 前時に描いたワークシートを見ながら振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で言葉や絵で考え、表したことを確認する。 ◇あったらいいなと思う新製品を考えることに、意欲をもっている。 <学びに向かう力、人間性等>
展開	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 前回のワークシートをもとに、あったらいいなと思う、新製品を画用紙に描こう。 </div> 2 あったらいいなと思うか新製品を想像し、画用紙に表す。	<ul style="list-style-type: none"> ・思いつかない児童には、今ある道具や機械から改善点を考えさせたり、自分の興味や願いについて考えさせたりするなど、支援をする。 ★どんな新製品があったらいいか考えることを通して育む、次のことを考える力 <ul style="list-style-type: none"> ◇あったらいいなと思う新製品を発想している。 <思考力・判断力・表現力等> ◇あったらいいなと思う新製品を工夫して絵に表している。 <知識及び技能>
まとめ	3 今日の活動を振り返る。 4 片付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・工夫して表したところを発表し、見合う。

◆ 成果と課題

【成果】

新製品を発想することに意欲的に取り組めた児童は、興味深い新製品を考えることができた。また、自分の関心事や願いについて、考える機会にもなった。児童の作品を紹介すると、アレルギーなどの情報を、必要な状況で他の人に伝えられる腕時計や、家事の手順を覚えてやってくれて、コンパクトに収納できるロボットなど、今後本当にあったら便利だなと思う、夢のある新製品を発想して絵に表すことができた。

【課題】

新製品を発想することが難しい児童は、あまり思い入れをもてず描いたように思われる児童や、数名似た作品になる児童もいた。どうしたら児童の発想を広げることができるか、また、難しいことでなくても、自分の関心事や願いについて考えることなど、日頃から発想力や思考力を広げ高める機会を設定すること必要だと感じた。

第6学年 道徳科「自分を信じて—鈴木明子」


◆本時の指導



(1)本時の目標

自己の向上のために高い目標をもち、苦しくても努力して物事をやり抜こうとする実践意欲と態度を育てる。【A 希望と勇気、努力と強い意志】

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 何かに挑戦していて、くじけそうになったことや、諦めそうになったことがあるかを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、鈴木選手のスケートの映像を視聴する。 ・日頃から継続して続けていること、挑戦していることやその経験について Google form で事前アンケートを行う。
	くじけそうになったとき、自分を支えてくれるものは何だろう	
展開	2 教材を読み、話し合う。 ○鈴木選手は、連続ジャンプの練習にどんな気持ちで臨んだのだろう。 ○くじけそうになった時、鈴木選手を支えたものはなんだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・「Jamboard」を使い、鈴木選手を支えたものについて考えを共有する。 ※消去ボタンを押すと、すべてが消えてしまうので注意する。 ※考えが似ている付箋同士を近くに置くようにする。 ※どうしてそう書いたのか、こちらから指名し、付け足して発表することで考えを深める。 <p>★【自己理解・自己管理能力】 自己実現するためには、どのような考え方が必要なのかを、鈴木選手の生き方を通して考える。</p> 
まとめ	3 学習を振り返る。 ・今日の学習を通して考えたことを振り返る。(Google form)	◇自己の向上のために目標をもち、苦しくても努力して物事をやり抜こうとする実践意欲を育むことができたか。(Google form)

◆ 成果と課題

成果

- 事前に鈴木選手の試合の映像を視聴しておくことで、教材への興味がわき、目標をもち、苦しくても努力して物事をやり抜こうとする意欲を高めることにつながった。
- Jamboard を活用することで、児童同士が考えを交流できると共に、教師側が考えを詳しく聞いた児童を指名して学びを深めることができた。

課題

問い返しにより児童の言葉を引き出し、児童の言葉で学習が深まっていくように努めていくことが課題である。

第6学年 道徳科「六年生の責任って？」

◆本時の指導



(1)本時の目標

集団における自分の役割を自覚して責任を果たし、学校生活を充実させようとする実践意欲と態度を育てる。【C よりよい学校生活、集団生活の充実】

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 六年生には、どんな役割があるかを考える。	・六年生がどのような存在であるか、下学年にアンケートをとったものを活用し、学習意欲の向上につなげる。 ・事前アンケートをもとに、自分が果たしている役割を思い出し、どんな気持ちで、どのように取り組んでいるかを振り返る。
	よりよい学校にするために、六年生としてどんなことができるだろう。	
展開	2 教材文を読んで、話し合う。 ○「最高学年としてできること」についての話し合いで、誰の立場で意見を述べますか。 ・「ぼく」の考え →六年生の力で学校を綺麗にしようという考え ・「山本さん」の考え →美化委員会の仕事として、やればよいという考え ・「横山さん」の考え →六年生が片付けるのも、美化委員会が片付けるのも反対 3 横山さんは、何が言いたかったのかを考え、「六年生の責任」とはどのようなものかを話し合う。	・それぞれの立場の意見が、視覚的に整理できるような教材提示をする。 ・登場人物は、それぞれ最高学年としてどうあるべきかを自分なりに考えていることをおさえる。 ・自分は誰の立場に立って考えるかを決め、意見を交流する。【Jamboard】 ・学校にとってどうすることがよいことなのかを考え、意見をまとめたり、友達の考えを聞いたりできるようにする。 ・最高学年としての自覚を促し、よりよい学校にするために行動していこうという意欲につなげる。
まとめ	4 今日の学習から考えたことを振り返る。	★自己を見つめ、よりよく生きるためにはどうしたらよいかを考える。 ◇これまでの自分の行動を振り返って考えたこと、本時の学習を通して、考えたことなどを振り返っている。【Google form】

◆ 成果と課題

【成果】

行事などで下学年から実際にもらったフィードバックを紹介することで、六年生としての役割を考える意欲につながった。Jamboard と板書を使い分けることで効果的に学習をすすめることができた。

【課題】

コロナ禍により、中学年での話し合い活動が不足しているため、司会を立てて話し合うことが難しい班があった。「考えや気持ちを伝える力」を育むために、日頃からグループごとに話し合う活動を取り入れていく必要がある。

第6学年 道徳科「ここを走れば」

◆本時の指導



(1)本時の目標

法やきまりを支えているのは、人々のどんな考えかについて考えさせ、法やきまりの意義を理解したうえで、進んで守ろうとする心情を育てる。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 アンケートの結果を確認し、本時の見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">きまりについて考えよう。</div>	・事前アンケート「きまりやルールはどんなときでも守るべきだ」の結果を基に話し合う。
展開	2 教材「ここを走れば」を読み、話し合う。 ○父が路側帯を走らなかったとき、「ぼく」はどう思っていただろうか。 ・急いでいるのだから仕方がないのでは ・他の人も走っているから、走ってもいいのでは ○父の涙を見ながら、「ぼく」はどんなことを考えていただろうか。 ・早く来られなかったことを後悔しているのかな ・自分の判断を後悔しているのかな ◎法やきまりは、人々のどんな考えによって支えられているのだろうか。(jam board) ・法やきまりを守ることによって、自分も他の人も守られるということ	・実際の道路の写真を提示し、話の内容を理解できるようにする。 ・きまり自体が、様々な事情によって反故にされる場合があることや、その可能性があることについて考えさせる。 ・展開によっては「父」の立場になって意思表示を試みる。 ・きまりを守ったことによって間に合わなかったことについてそれぞれが考えたことを共有する。 ・法やきまりを「ただ守ればいい」のではなく、なぜ法やきまりがあるのか、という背景に考えを巡らせることができるよう促す。 ・逆に法やきまりを守ることができないときはどんなときか、それぞれの考えを共有し、振り返りにつなげる。
まとめ	3 自分自身を振り返って考える。	★自己を見つめ、法ときまりと自分自身との関わりについて考える。 ◇自分にとって「きまりを守る」とはどういうことか、今までの自分の生活を振り返りながら考えている。(フォーム)

◆ 成果と課題

【成果】

様々な立場に立って話し合い、法やきまりについて考えることができた。授業終末の児童の振り返りからは、友達のことを受け入れながら、法やきまりの意義を理解し進んで守ろうとする記述が多く見られた。

【課題】

法やきまりを支えている人々の考え等の背景については、引き続き学校生活全体の様々な場面を通して考えていく必要がある。また、より多くの友達の考えを聞くことにより、自己の考えを広げ深めていく姿勢を養う必要がある。

第6学年 道徳科「手品師」


◆本時の指導



(1)本時の目標

私利私欲のためでなく、真心をもって物事に向き合っていくことが、気持ちが良いということに気づき、誠実に明るく生きようとする心情を育てる。【A 正直，誠実】

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 「誠実」について考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 「誠実に生きる」とはどのようなことを考えよう。 </div>	・事前アンケートをもとにどんな生き方を誠実と感じるのかを話し合う。
展開	2 教材「手品師」を読んで、話し合う。 ○男の子に手品を見せたときの手品師はどんな思いだったでしょう。 ○迷いに迷った手品師は、どのような思いだったのでしょうか。 ◎約束を守ることを選んだ手品師は何を大切にしていたのでしょうか。	・教材の世界に入り込めるよう、スライドを使って教材提示をする。 ・大劇場と男の子のどちらを選ぶのかを考えさせることで、手品師の心の葛藤について考えを深められるようにする。 ・補助発問で揺さぶり、男の子を選んだから「正しい」というわけではなく、物事に真摯に向き合い、悩みながらも自分の良心に従い、決断したことに価値があるということに気付かせる。
まとめ	4 自分自身を振り返って考える。 5 教師の説話	★自己を見つめ、よりよく生きるためにはどうしたらよいかを考える。  ◇自分にとって「誠実に生きる」とはどんな生き方をすることなのかを今までの自分の生活を振り返りながら考えている。(フォーム)

◆成果と課題

【成果】

範読をスライドで行うことによって、児童が作品の世界にスムーズに入ることができていた。夢か少年を選ぶ場面では、児童にも葛藤が見られ、手品師の思いに心を寄せることができていた。

【課題】

さらに、「自分だったらどうするのか。」という視点の発問があると、児童が自分の経験や価値観で考えることができると思う。

第6学年 学級活動(3)「一年生をむかえよう」


◆本時の指導



(1)本時の目標

一年生が楽しむことができるけやき班活動の内容について考え、話し合う。

(2)本時の展開

	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準 ★育てたい基礎的・汎用的能力
導入	1 一年生が楽しむことができる「クラス紹介クイズ」はどのようなものか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に授業の概要を伝えておき、スムーズに導入できるようにする。 ・出た意見について板書し、必要に応じてなぜそのように考えたのかを問う。
	一年生が楽しむことができるクラス紹介クイズを考えよう。	
展開	2 クイズのアイデアを出し合う。 3 アイディアを検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・フォームでアイデアを募集する。 ・集まったアイデアについて、必要に応じて児童が説明をする。 ・集まった意見の中から良いと思うものを選び、投票する。(Google form) ・司会は代表委員の児童が行い、選ばれた意見の改善について検討する。 ・話し合いで意見が分かれた際は、導入時に出た意見に立ち戻って考えるように促す。
まとめ	4 活動を振り返り、次回の検討課題を明らかにする。	★活動の振り返りの際に自分の考えの変化に気付いたり、友達のよさを認めたりし、次の活動の見通しをもっている。(発言、振り返り分析)  ◇活動の振り返りの際に自分の考えの変化に気付いたり、友達のよさを認めたりし、次の活動の見通しをもっている。(発言、振り返り分析)

◆ 成果と課題

【成果】

一年生が楽しめるようにと相手の立場に立って考えることができた。また児童の意見の中にはより良い活動にするために工夫をしようという発言が複数あった。

【課題】

今後は活動の結果を振り返り、さらに充実した活動にするために工夫を重ねていく必要がある。そのために、友達の考えに関心を持ち、質問したり、考えを伝え合ったりする経験を重ねる必要がある。